

# 全理事会・市郡地区医師会長連絡協議会合同会議

## 定例代議員会への付議事項等を協議



平成22年2月20日(土)午後3時30分より、広島医師会館にて標記の合同会議を開催した。この会議は、3月7日(日)に開催される第102回定例代議員会並びに第72回定例総会、第50回医師共済会総代会への付議事項の承認を受け代議員会へ告知するため開かれた。

はじめに、碓井静照県医師会長より挨拶があり、続いて報告・協議事項に入り、檜谷副会長による平成21年度会務報告など、次第に沿って報告・協議事項について関係役員から上程理由等の説明がありいずれも承認された。

第8号議案「平成22年度事業計画の件」、第9号議案「平成22年度一般会計歳入歳出予算の件」、第10号議案「平成22年度医療事故特別会計収支予算の件」、報告・協議事項(10)地域産業保健センターの事業見直について、(11)日本医師会生涯教育制度の変更については会長挨拶に続き別掲。

### 1. 会長挨拶



碓井 静照  
広島県医師会長

皆様、こんにちは。本日は週末で諸事お忙しい中、平成21年度最後になりますが、全理事会・市郡地区医師会長連絡協議会合同会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。ごぞいます。

本日の会は、3月7日、また県医師会長選挙があれば3月13日の2週にわたり開催される第102回定例代議員会、第50回定例総会、第72回医師共済会総代会に提出する付議事項について審議を賜る会議でござ

います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。先生方には、本会の会務諸事業に対し、格別のご支援ご協力を賜り改めて厚く御礼を申し上げます。

さてわが国の国民皆保険制度は、全ての国民が等しく、最高の医療サービスを受けられることを社会的に保障するという高邁な理想を掲げ、昭和36(1961)年に発足しました。以来、日本の医師、看護師は、人数が少ない上、経済的、社会的処遇も諸外国に比べ極めて低く、勤務条件も過酷である中、献身的に診療、看護にあたってきました。また日本の国民医療費は、先進諸国の中でGDPあたり最低の水準でありな

がら、日本の医療は最高のパフォーマンスを上げてきました。しかしこの理想に近い医療は、中曽根政権に始まり、特に小泉政権下で強行された度重なる乱暴な医療費抑制策によって、維持し続けることが極めて困難になってしまいました。日本の医療はいま、全般的危機といっている状況にあります。

この危機的な状況の下、昨年8月30日に行われた第45回衆議院議員総選挙の結果、民主党が300を越す議席を獲得する一方、自民党は結党以来初めて第一党の座を失い政権交代が実現しました。自民党の歴史的な大惨敗は、年金問題や後期高齢者医療制度に象徴される、歴代自民政権下における市場原理主義に徹した反社会的、非倫理的な政策運営に対する国民の批判と怒りに基づくものであります。

一方、民主党は、そのマニフェストでセーフティネットの強化と社会保障の充実を訴えました。また医療の崩壊を食い止め、国民に質の高いサービスを提供するために、医療の対GDP比をOECD諸国並に引き上げる考えを打ち出しました。こうした考え方は私がかねてから主張しておりました医療再生を願う国民と医療関係者の多くが、民主党の医療政策に期待と関心を寄せています。しかし、医療費の財源確保は容易ではなく、それは平成22年度の診療報酬改

定を見ても分かります。

この2月12日、厚生労働大臣の諮問機関である中医協の答申改定率について、一部医療関係者は「今回の診療報酬改定案は、診療報酬全体で0.19%、本体1.55%、医科本体では1.74%引き上げられる方向になり、診療報酬全体のプラス改定は、平成12年以来であり医療費抑制政策が転換されつつある」と一定の評価はしているものの、0.19%という「小幅な」改定となったことに関しては、医療現場に希望を与える水準ではなく、新政権発足後、新政権に期待を寄せてきた全国の医師、医療現場は、大きく失望し、憤りすら覚えます。特に、再診料の一本化の中での、診療所側の減額は甚だ遺憾です。

医療崩壊を食い止め、医療の再生を目指すには、現在の医療費水準では難しいと考えます。政府・与党は、日本のデフレ経済の進展に対する政策を早急に打ち出し、そして医療費の財源確保の道筋を国民に示し、合意を形成する努力をしてほしいものです。今後とも、県民の生命と健康を守るために、医療崩壊を阻止するために、広島県医師会は、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

さて、この1年を振り返りますと、まず中央情勢ですが、いま申し上げましたことに加え、新政権は、療養病床転換推進計画の

## 全理事会・市郡地区医師会長連絡協議会 合同会議次第

と き 平成22年2月20日(土) 午後3時30分～5時  
ところ 広島医師会館 3階 健康教育室

### 1. 開 会

#### 1. 広島県医師会長挨拶

#### 1. 報告・協議事項

- |                                    |           |
|------------------------------------|-----------|
| (1) 第102回定例代議員会(第1週・第2週)への付議事項について | 資料1 (松 村) |
| (2) 平成21年度会務報告について                 | 資料2 (檜 谷) |
| (3) 平成21年度一般会計補正予算案について            | 資料3 (島 筒) |
| (4) 平成21年度医療事故特別会計補正予算案について        | 資料3 (島 筒) |
| (5) 平成22年度事業計画案について                | 資料3 (高 杉) |
| (6) 平成22年度一般会計歳入歳出予算案について          | 資料3 (島 筒) |
| (7) 平成22年度医療事故特別会計収支予算案について        | 資料3 (島 筒) |
| (8) 第50回医師共済会総代会への付議事項について         | 資料4 (島 筒) |
| (9) 第72回定例総会・第73回臨時総会への付議事項について    | 資料5 (松 村) |
| (10) 地域産業保健センター事業見直しについて           | 資料6 (井之川) |
| (11) 日本医師会生涯教育制度の変更について            | 資料7 (平 川) |
| (12) その他                           |           |

### 1. 閉 会

凍結、後期高齢者医療制度の廃止、レセプトオンライン義務化の撤廃などを打ち出しており、なかでも国民の反発が強かった後期高齢者医療制度は、廃止する方針としています。このことについては歓迎していますが、長妻昭厚生労働相が、新たな中医協診療側委員に、報復人事とも思える医師の代表である3名の日本医師会役員を排除したことは誠に遺憾であります。

このことについて会員の中から日本医師会に対しては、先の衆議院議員総選挙で自民党の大敗、民主党の政権交代を見抜けなかったこと、医師の6割が民主党に投票し会員の声を聞いていなかったとして、批判が高まっております。自民党支持に執着しすぎた反省で、自民党一辺倒の政治対応は改めましたが、来る4月1日に行われます日本医師会長選挙には、自民党を推してきた現執行部の唐澤会長、民主党を推している茨城県医師会長の原中先生、そしてその中間派の京都府医師会長の森先生が立候補し三つ巴の戦いの様相を呈してまいりました。いずれの結果になるにしても、日本医師会員全員が一致団結して、今の危機的状況にある医療を再生するために、平時の国家安全保障としての医療について、具体的政策を政府に対し、国民に対し、提言していくことが、われわれ職能団体の使命だと思っています。この1年間の広島県医師会は皆さまのおかげにより、順調に会務・諸事業をこなしてきておりますが、主なものについて後ほど副会長から報告があります。

広島県地域医療再生計画は、本県の医療が抱える諸課題の解決に向けての第一歩として、着実に進める必要があると考えています。特に、県医師会が提案している広島駅新幹線口側の「地域医療総合支援センター(仮称)」は、本県の医療、保健、福祉を支える拠点施設としてぜひとも必要な施設であり、適宜会員の皆様のご意見を伺いながら、その実現に向けて最善の努力をしてまいります。今日も会長先生方のご意見をお伺いしたいと思っておりますが、来年度早々に検討委員会を会内に設置し、十分な議論をいただいた上で、広島県からの支援もいただくために、臨時代議員会を開催し、予算をはじめ場所の設定、建物の設計など具体的な計画を皆様にお諮りをしたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

なお広島県医師会の役員につきましては、常任理事、理事、監事そして日医代議員の選出に関しましては、これまで通り地域性も考慮して決めさせていただきたいと思っております。

また現執行部は会長、副会長を含め16名の常任理事で業務を分担してはいますが、事業拡大により常任理事の負担が増大しているため、それを軽減するため理事1名を減らして常任理事を1名増やし17名にしたいと考えております。この件もいろいろとご審議いただきたいと思っております。

私ども広島県医師会は、これからも凛とした医師会、県民、会員に開かれた医師会、行動する医師会であるとの理念の下に、地区医師会のご意見・ご意向を率直にお聞きして、会務に反映させてまいりたいと思っております。

本日は、どうぞ忌憚のない、活発なご意見を頂戴しますとともに、引き続きのご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

## (10) 地域産業保健センター事業の見直しについて



井之川廣江  
広島県医師会  
常任理事

地域産業保健センター事業の見直しの問題が昨年12月以降、急に起こってまいりました。平成19年から20年度、全国の19労働局に対し会計検査院の現地検査が行われ、そのうち15の地域産業保健センターに対して、直接会計検査院が入り、全ての地産保で不適正経理が指摘されましたことに始まります。そういう背景の下、昨年7月の参院本会議で厚労省の委託事業の見直しが決議され、昨年12月中頃、厚労省の担当者が日医へ来館し、これまで労働局と全国347の地域産業保健センターとが委託契約をしていたが、これを都道府県単位での契約、事業の実施が提案されました。

日医は、都道府県医師会、郡市医師会への情報提供、準備時間が不十分なため、平成22年度からの全国一斉の実施は無理であるとの意向を示し、見直し案による具体的な改善案を示しましたが「本センター事業の募集は、公募による企画競争なので、企画競争の一つの受託者に情報提供はできない」と厚労省側が主張したところからボタンのかけ違いが起きました。

1月20日、各都道府県の労働局へ、本当に寝耳に水なのだそうですが、本センター事業を各都道府県単位で実施するという通知が出されました。日医から都道府県の方にも1月22日書が届き、その後、企画競争に参加するためには

1月末まで資格申請が必要ということで申請をしました。

2月12日、日医で各都道府県産業保健担当理事連絡会議が、緊急に召集され説明がありました。要するに平成22年度からは、各県単位で労働局と委託契約を結び、本センター事業を実施するという事です。事業は今まで通り行っていただいて結構ですが、一括して受託契約をするのは、産業保健推進センターや民間の健診センターという可能性もないわけではないが、都道府県医師会が一番適当であろうというのが日医の考えでした。統括コーディネータを一人置き、地域のコーディネータと連絡をとるので、県内の事業が平準化される、活発に活動している地産保に対して重点的に経費配分される、そして面倒な契約作業がないということでした。

広島県医師会としては、事務作業が増え大変なことばかりですが、県全体の産業保健活動が活発になればよいと思っています。2月12日の日医の説明では「本センター事業の受託団体となるのが可能」と回答したのが10県、そして「見直し案の方向性について賛成」と回答が16県でした。また1月末まで急遽申請した「競争参加資格」は今回に限っては不要となったという話がありました。

現在のところ、企画書作成の資料とさせていただくために、昨日19日、地域産業保健センターを運営しておられる地区医師会へ平成20年度決算書、平成21年度事業計画書をお送りいただくようお願いしました。それを積み上げて、企画書を作り提出する予定です。詳細なことは労働局と今から詰めていかなくてはと思っています。

#### 長崎広島市医師会長

(事業が県単位となるという話は)随分前から出ており、どういう形になるか情報提供が欲しいと、広島市医師会、広島市地産保センターでお願いしていたわけですが、井之川常任理事が言われるように、昨日、資料提供の依頼が県医師会からありました。

日本医師会は「1.平成22年度から実施可能な医師会」「2.見直し案に賛同するが平成22年度からの実施が困難である医師会」「3.見直し案に対して賛同いただけない医師会」と例を示しているが、もし「2」「3」を選択した場合には、地産保センターはまったく仕事ができなくなるということになるわけですか。愛媛県などは、反対の意向を随分前に出されており、地産

保センターの活動は中断すると聞いています。

#### 井之川常任理事

そういうこともあり得ますので、県としては労働局が大変慌てているところもあると聞きます。労働局が一生懸命やらなかったら中断と言うこともあるでしょう。「何となく重荷でやりたくない」という意見の医師会もあります。

#### 長崎広島市医師会長

地産保センターを運営してきた市医師会とすれば、これまで一生懸命やってきたわけですが、全体として事業費が減額され、その上、県医師会が事務経費を取ることとなると、今までやってきた産業保健活動の事業を縮小せざるを得なくなるというのが当面見えるわけですが、そういう状況の中で全く情報の提供がなく、突然資料を提出して下さいという依頼がきました。「2.見直し案に賛同するが平成22年度からの実施が困難である医師会」を選んでいただいて、もう少し検討しながら進めていかれてもいいかと思いました。

#### 井之川常任理事

(厚労省からの文書は)日医としても唐突、労働局としても唐突、政権交代というのはこういうことかなと思った。現在労働局から提示されている額は6,673万6千円と、去年より1万1千円減額されているので、省けるところは省いて、それでも県医師会としては持ち出しになるかなという感じはあります。

#### 長崎広島市医師会長

広島市医師会へも会計検査院が入り返納せよという綱引きがあったのも事実で、各地区医師会では、経費について四苦八苦されているところもあるだろうと思います。ただ広島の地産保センターとすれば一生懸命頑張ってきた経緯があるので、唐突でなんとなく仕事の量だけ減らされてしまうという危惧を持っているので質問させていただきました。

#### 碓井会長

広島県医師会は行政全般に協力する姿勢を基本として持っています。できることなら協力しているものは協力したい。今回のような制度変更については、よく勉強して対応するし、赤字になってまでは協力しないが、とんとんくらいならできれば協力しましょうという考え方です。

長谷川賀茂郡東部医師会長

われわれにもシメリットがないのであれば、踏まれても何でもついていくというこれまでの姿勢は捨ててしまった方がいいんじゃないかと思っています。ですから、現実に余り地産保には関与していないので何とも言えないが、各地区医師会に利点がないのなら事業を実施しなくてもよいというスタンスでもよろしいんじゃないでしょうか。

碓井会長

そういう考え方もあるということですね。ありがとうございます。

(11) 日本医師会生涯教育制度の変更について



平川 勝洋  
広島県医師会  
常任理事

県医師会速報等でご案内していますが、昨年11月、日本医師会の生涯教育制度が改革されることが一方的に報告されています。大きな変更点はカリキュラムコードを84作って、3年間の間に30単位30項目、履修しなさいということですので。これまでは記名簿にご記入い

ただいた先生を県医師会で取りまとめ一括して日医に報告しておりましたが、それが難しくなりますので、昨年12月に市郡地区医師会の担当理事の先生方にお集まりいただきご説明しております。今後、各学術集会についてカリキュラムコードをふっていただく必要がございます。それと広島医学会のような大きな会の場合には参加証を発行して、各会員が「自分はこのカリキュラムコードを何単位とりました」と事務局へ申告いただくような少し煩雑なことになるかと思えます。

ただ、制度変更については、関東地区の医師会から日医にクレームがついており、また日医執行部が変わるとこれがうまく運用されるかどうか分からないということがありますので、今のところは現行の形で申請を受け付けておりますが、4月以降、新しく別の書類を書いていただくようになるかも知れませんのでよろしくお願いたします。

全理事会・市郡地区医師会長連絡協議会合同会議

平成22年 2月20日(土) 15時30分～17時  
広島医師会館 3階 健康教育室

役職名	氏名	氏名	理事	(菅田 巖)	豊田郡(欠)	山野 忠	信稔
副会長	碓井 高	静敬 久美	〃	(星田 昌吾)	竹原地区(欠)	浅野 岡	栄玄
常任理事	高 檜 平	義 惠 一	〃	福 兼 坂	世 羅 郡	森 和 川	陸 雄
〃	(平 川 新本)	裕 稔 郎	議 長	野 泰 州	松永沼隈地区(代)	亀 長 田	健 吾
〃	柳 田 実	志 誠 郎	地区医師会名	福 永 泰 州	深安地区	星 戸 川	昌 完 勝
〃	松 井 之	志 廣 正	広島市	長 崎 孝太郎	府中地区	長 星 戸 川	昌 完 勝
〃	堀 江 野	正 國 健	呉 市	豊 田 秀 三	三次地区	空 遠 向	本 藤 栄 二
〃	天 有 榎	一 毅 代	福 山 市	細 木 山 十 通 寿	庄原市	堀 岡 茂 弘	英 みどり
〃	温 泉 川 荒	梅 康 昭	尾 道 市	片 山 川 十 通 寿	広島大学医学部	堀 岡 茂 弘	隆 英 ノリ
〃	(望 月 正 博)	昭 博	大 竹 市	弓 荒 田 月 藤 崎	広島大学医学部	関 杉 市 森 中 坂 三 答	生 子 望 治 保 子
〃	(佐々木 正 晋)	一 健	安芸地区	望 伊 藤 仁 一 基 彦 博	広島大学医学部	岡 玖 元 口 輪 島	典 晃 裕
〃	(澤 長 平 川)	春	佐伯地区	伊 藤 仁 一 基 彦 博	広島大学医学部	岡 玖 元 口 輪 島	典 晃 裕
〃	(長 平 川)	春	安芸高田市	江 谷 川 木	広島大学医学部	岡 玖 元 口 輪 島	典 晃 裕
〃	(長 平 川)	春	賀茂郡東部	江 谷 川 木	広島大学医学部	岡 玖 元 口 輪 島	典 晃 裕
〃	(長 平 川)	春	東広島地区	江 谷 川 木	広島大学医学部	岡 玖 元 口 輪 島	典 晃 裕